

## 第 11 回 WCAP（世界畜産会議）発表に関する報告書

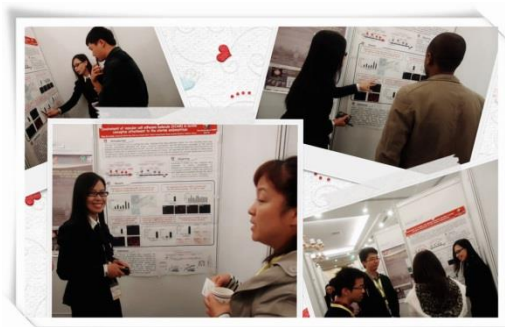
東京大学大学院農学生命科学研究科 白汝嵐

### 発表の概要

ウシを含む哺乳動物では、早期胚死滅のために多くの受精卵が妊娠に至りません。早期胚死滅の発生する着床期周辺期の胚と子宮内膜のインターアクションを解明するために、私たちは「リンパ球ホーミング」という現象に着目しました。リンパ球ホーミングとは、リンパ球が血流中で減速し、血管内皮と接着後、浸潤し、炎症組織へと移動する過程です。この現象から、胚の子宮内膜への着床現象を検証しようと考えました。本研究では、リンパ球ホーミングに関与する接着因子 vascular cell adhesion molecule (VCAM)に着目し、ウシの着床期の VCAM 発現を胚と子宮で検討し、その発現動態を子宮と胚の培養細胞系を用いて検証しました。その結果、ウシ着床期では、VCAM が胚と子宮内膜上皮細胞表面に、レセプターITGA4 は胚側に発現しており、それらは培養細胞系で発現誘導されることから、胚の着床、とくに子宮上皮細胞への接着に重要であると考え、発表しました。

### 発表の状況

私の研究発表には様々な研究者が興味をもって聞きに来てくれました。その中で、自分の研究の強みや弱い処を認識することが出来ましたし、いろいろなアドバイスももらい、今後の研究に生かせる情報をたくさん得ることができました。



### 学会の感想

哺乳類の妊娠の成立には、胚が子宮内膜に着床し胎盤形成をすることが必須です。今般、私はウシの着床過程に必須な接着因子を検証し、本学会にて発表いたしました。本学会の研究領域は、私が東京大学の博士課程を修了した後に母国（中国）にて携わりたい領域です。そこで、私の研究成果を発表するだけではなく、中国の畜産経営を安定させるためには何が必要なのか？そして、私はどのように関わっていききたいのか、いけるのかを見極める素晴らしい機会になりました。そのため、本学会中は出来るだけ多くの農学・畜産学、とくに中国の研究者にお会いしただけではなく、その後の共同研究や中国での研究者としての就職情報や状況なども得ることができました。従いまして、本学会への参加は、これからの研究の方向性を見極められただけではなく、私の研究者としての将来を占う非常に良い機会になりました。

